

2018年1月12日
日興アセットマネジメント株式会社



エンジェルジャパン・アセットマネジメント*
運用チーム

日興グローイング・ベンチャーファンド

エンジェルジャパン宇佐美博高から 皆様へのメッセージ

右から 宇佐美代表取締役、内藤チーフインベストメントマネジャー、
金沢シニアインベストメントマネジャー、柳葉シニアインベストメントマネジャー

*当ファンドの投資助言を行なう投資顧問会社です。

「エンジェルジャパン・アセットマネジメント」の **投資哲学**

- **経営者に対する『個別直接面談調査』を徹底することで、革新成長企業を厳選します。**
- **新興成長企業は判断が難しいため、アナリスト経験豊かなチーム全員で一緒に面談し、投資判断も完全な合議制にて運営しています。**
- **IPO(株式の新規公開)のロードショー**でほとんど全ての企業と面談し、革新的な企業とはその後も定期的に面談します。**
- **組入企業を順次入れ替え、常に「今が旬」の「成長割安50社パッケージ」を維持することをめざします。**

**IPO前に行なわれる機関投資家向けの会社説明会

※上記「50社パッケージ」とは、50社程度という意味で使用しており、投資銘柄数を50社に限定するものではありません。

～革新的成長企業の飛躍が期待される～

2017年12月15日に日本銀行から発表された全国企業短期経済観測調査（短観）は、わが国の経済状況が良好であることを裏付けるものとなりました。景況感が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた業況判断指数（DI）は、大企業製造業でプラス25と前回の9月調査から3ポイント上昇、5四半期連続で改善しており、2006年12月調査以来の高水準となりました。しかも、化学から生産用機械、自動車など、幅広い業種で改善が見られます。中堅企業や中小企業でも同様に改善が見られ、全産業・全規模でみてもプラス16と、前回よりも1ポイント上昇しています。世界経済が堅調な中で輸出が伸びてきていることや、増産投資や省力化投資といった設備投資が国内外で活況なことなどが、経済のけん引役となっています。なお、先行き（大企業製造業）に関してはプラス19と、足元の見方よりは厳しくみっていますが、前回調査における先行きもプラス19であったことを考えると、悲観的に捉えることはないと考えられます。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興グローイング・ベンチャーファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

実際に、日々の個別直接面談調査でも、新たな動きを感じています。例えば、ある機械関連メーカーの経営者は、「従来は、周辺で積極的に拡張する企業が他になかったため、空いた工場用地の案件がすぐに見つかったが、今回はなかなか見つからないため、工場内の事務スペースや駐車場を生産スペースに転換せざるを得ない」と仰っていました。ほかにも工場用地が見つからないという話を聞くようになりました。幅広い領域で事業拡張のために工場用地を確保するメーカーが増えているとみられ、しばらくなかった動きと言えます。この背景には、為替が以前よりも円安で安定していることに加え、他のアジア各国の人件費急騰で、国内のコスト競争力が相対的に高まっていることが考えられます。さらに最近では、わが国の製造業の技術力が再度見直されて、最先端分野での受注が増えている傾向もみられます。その結果が製造業の先行きを明るくし、積極的な増産投資に結びつき、雇用にも直結することから、景気の押し上げ効果も大きいと考えられます。もちろん、人員の確保や働き方改革への対応など、超えるべきハードルはありますが、突発的な金融危機のようなことがなければ、景気の好循環が続く可能性は高いでしょう。自らの強みに磨きをかけて積極的な展開をしていく企業にとっては、業績を飛躍的に拡大するチャンスと言えます。

さて、2017年のIPO（株式の新規公開）社数は90社と、2016年の83社を上回り、幅広い業種の企業が上場しました。その中には、AI（人工知能）のアルゴリズムを提供する企業がありました。AIは、コンピュータ上などで人間の知能と同じような働きを実現しようとする技術です。同社では、ビッグデータを読み込むことで自らが学習・進化していく“ディープラーニング”と呼ばれる理論を用いています。アルゴリズムというのは、データを分析して答えを導くための処理手順、いわばプログラムの心臓部となるもので、同社では大学の研究室とも協力しながら最先端の技術開発を行なっています。特に言語解析の分野に注力しており、大手企業とも協力関係を構築しながら、コールセンター業務に適したシステムを開発しています。さらには、販売も共同で行なうといったビジネスモデルも構築して、システムの普及を図っています。

こうした企業が継続的に成長するか否かを見極めるには、今後も競合企業に対する優位性を保てるか、言語解析に続いて画像認識といった分野への展開が花開くかなど、注視する必要がありますが、わが国でもこうした最先端分野で有望なベンチャー企業が育ってきたことは心強いことと考えられます。一方で、AIに関連する上場企業が生まれたことは、AIが本格的な普及期に入ってきていることを示唆していると言え、6年前にビッグデータ解析の企業が上場してきたことが思い起こされます。また、AIが実用可能なレベルになってきたことで、今後はAIを活用する企業も増えていくことが想定されます。そして、利用する企業自らの強みと組み合わせることで、さらなる効率化の推進、既存サービスの向上、新サービスの展開といった付加価値の創出が可能になるとみられます。

2018年も最先端技術の担い手となる新興企業が株式市場に出現し、また、それらを自らの力に取り込んで成長していく企業も多く現れると期待されます。今後も、積極的な調査活動と分析を続けながら、日本経済を盛り上げていく成長企業を厳選し、受益者の皆様に対して魅力的な「成長割安50社パッケージ」を提供できるように努力してまいります。

エンジェルジャパン・アセットマネジメント 宇佐美 博高

1976年一橋大学卒。静岡銀行、すみや電器を経て野村総合研究所入社。ディービー・モルガン・グレンフェル・アセットマネジメント（現ドイチェ・アセット・マネジメント）等で株式運用責任者を歴任後、2002年エンジェルジャパン・アセットマネジメントを設立



ファンドの特色

1

高成長新興企業の株式に投資を行ない、信託財産の成長をめざします。

○主として、公開後5年以内のわが国の金融商品取引所上場株式の中から、革新的な高成長新興企業(=グローイング・ベンチャー)に投資を行ないます。

2

エンジェルジャパン・アセットマネジメントによる徹底したボトムアップ・リサーチにより有望企業を厳選します。

3

エンジェルジャパン・アセットマネジメントから投資助言を受けます。

お申込みに際しての留意事項

■ リスク情報

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【未上場株式などの組入リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様へ「日興グローイング・ベンチャーファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興グローイング・ベンチャーファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

お 申 込 め も

商品分類	追加型投信／国内／株式
ご購入単位	購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
ご購入価額	購入申込受付日の基準価額
信託期間	2023年7月18日まで(2003年7月18日設定)
決算日	毎年7月17日(休業日の場合は翌営業日)
ご換金代金のお支払い	原則として、換金請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

手 数 料 等 の 概 要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時手数料率は、3.24%(税抜3%)を上限として販売会社が定める率とします。 ※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	換金時の基準価額に0.5%の率を乗じて得た額

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬	純資産総額に対して年率2.052%(税抜1.9%)を乗じて得た額
その他費用	組入有価証券の売買委託手数料、監査費用、借入金の利息、立替金の利息 など ※その他費用については、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 日本証券業協会
投資顧問会社	エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]http://www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第6号	○		
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○		
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第24号	○		
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第131号	○	○	
碧海信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第66号	○		
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第181号	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○

(50音順、当資料作成日現在)